



## 社会福祉法人 京都障害者福祉センター

### ～新型コロナウイルス～緊急事態宣言発出中～

4月25日から発出されている新型コロナウイルス感染拡大に対応するための緊急事態宣言が、京都をはじめとする9都道府県で6月20日まで延長されることになりました。

全国的に変異株にほぼ置き換わったと言われている中、第3波と比べ、感染拡大の速度が速く、また、人流の抑制等の対策を講じても、感染者数の減少に繋がるまで長い期間を要していると専門家により分析されています。

感染者数はピーク時から減少傾向にありますが、ここで対策を緩めれば、直ちにリバウンドする危険性も指摘されています。

当法人の施設では、職員、職員の家族、利用者及び利用者の家族で、PCR検査を受けられる事例が先月5月は、8件（4月：14件）あり、累計で87件となりました。

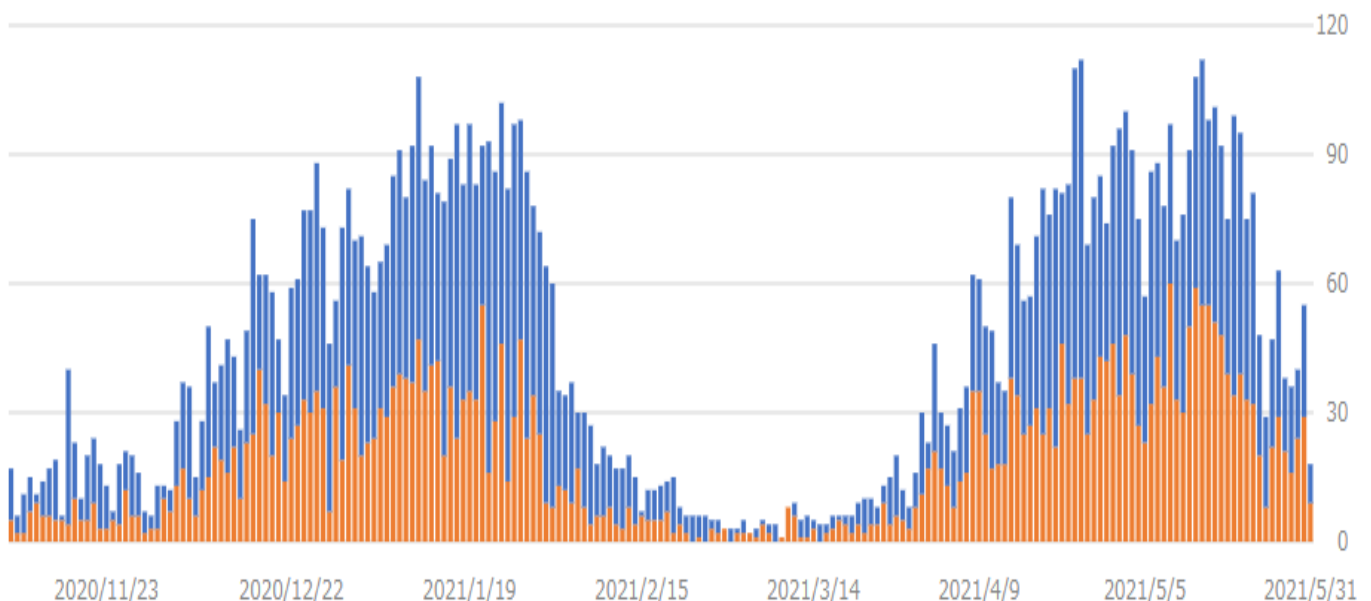
内1件で利用者の陽性が確認されましたが、最終通所日と陽性判明に約3週間の期間があったことから、幸い施設運営に支障は生じませんでした。

介護の現場は、常に厳戒態勢です。

職員の皆さんにおかれましては、引き続き、マスク、手洗い、距離確保、三密回避をはじめとする日々の感染対策、利用者、職員の健康状態の把握など基本的な対策の徹底をお願いします。

### 京都市内の感染者数（日別）

凡例（青：感染経路判明分、橙：感染経路不明分）



（本部事務局）

## 多機能型事業でブログを作成しています！



洛南身体障害者福祉会館の多機能型事業では、2019年11月よりアメーバブログにてブログを作成しています。

多機能型事業や会館事業の行事の際は、ご利用者が主体となって、取材や写真撮影、記事作りを行っています。

行事が多い時は週に1度くらいのペースでアップしていました。(残念ながら今はコロナ禍のため、少しペースダウン中です。)



ブログ作成は多機能型事業や会館事業の紹介とともに、ご利用者が文章を作る機会にもなっています。特に若い世代の方は学校卒業後すぐに施設通所の毎日となり、学生の頃と比べて文章を作ったり、読んだりする機会が減っているのではと感じています。学生時代に培った文章作成のスキルを維持するためにも、ブログ作成を有効に活用して頂ければという支援者の願いもあります。



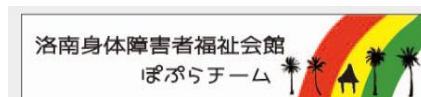
2019年の開始から1年半が経ち、これまで書き上げてきた記事は、活動記録としても貴重な資料になっています。時々2019年～2020年初旬の記事をご利用者と見返しては「この時はマスクしていないね。この時のレクはぎりぎり行けてよかったねえ」等のお話で盛り上がっています。



今後もその時々の情勢を記事にしながら、作成に携わる人数も増やしつつ、こつこつと記事を作っていきたいです。

最後に当ブログの閲覧方法ですが、洛南身体障害者福祉会館ホームページのバナーからリンクします。

皆さんぜひご覧ください！！

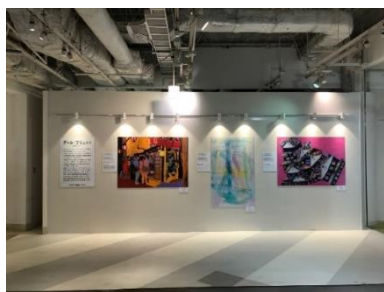


# 伏見エリアTOPICS① 【京都市ふしみ学園】

## やっほう!!の作品が公共スペースに展示されています

最近大変お世話になっているヘラルボニーの「全日本仮囲いアートミュージアム」の紹介です。  
(株式会社ヘラルボニーとは、「盛岡を拠点に異彩を、放て。」をミッションに掲げる福祉実験ユニット)  
「仮囲い」とは建設現場などを覆う囲いのことですが、今回は期間限定の地域活性型のアートプロジェクトで、いわばソーシャル美術館です。

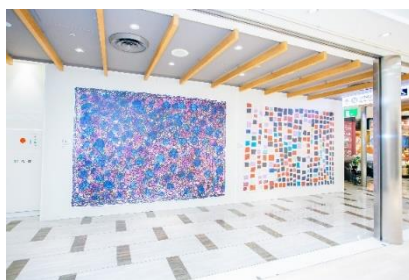
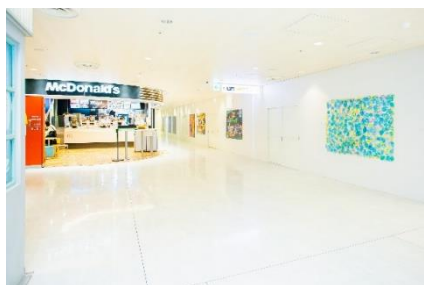
今、関東の2箇所でやっほうメンバーの作品が紹介されています。  
作品の設置場所は東京お台場アクアシティと成田空港第一ターミナル4階です



東京お台場アクアシティ [参加メンバー] 小寺由理子、肥後美雪(写真)、嶋津仁、国保幸宏、吉田裕志(敬称略)

作品がターポリン生地(丈夫な分厚い生地)に印刷されサイズアップされています。  
そして展示期間が終了するとこれらの生地がカバン、PCケースに再生されて、販売される計画です。  
送って頂いた写真で見ると、原画ではないのにとても鮮やかに作品が再現されていて、まるで町中に突然「やっほう!! ギャラリー」が出現したようです。成田空港は東京オリンピック、パラリンピックの選手、関係者が見てもらう機会にもなりそうです。

展示期間は9月末までですので、こんなご時世ではございますが、関東方面に行かれることがありましたら是非お立ち寄り、ご覧ください。



成田空港第一ターミナル4階 [参加メンバー] 南保孝(写真)、肥後美雪(敬称略)

(京都市ふしみ学園：中島 慎也)



## ベランダ菜園・花壇のたのしみ

ふしみ学園のタクシー班では、例年ベランダ菜園に取り組んでいます。いつも、3月の「みんなの会」で、何を育てたいのかの意見を出し合い、栽培する野菜を決めています。昨年度から、学園で『ふれあい農園』の利用を始めたので、今年度は、農園で育てない野菜や花を選びました。

プランターの土を耕し、小玉スイカや二十日大根、そして、ひまわりや朝顔、マリーゴールドなどを植えました。天気の良い日には水やりを行い、芽が出てきたことに喜びを感じ成長を見守っています。

今後も利用者さんや職員の安らぎの場になるように四季折々の花を植えていこうと思っています。



(京都市ふしみ学園：永田 憲男)

## 『既製品に頼らない支援員の知恵絞り』

山科身障会館生活介護事業では、昨今のコロナ禍で外出がままならない中でも、ただ手をこまねているわけにはいかないということで、室内での利用者さんの満足度向上に力を入れています。特に機能訓練に関しては、移乗用福祉用具『ささえ手』を新規に導入したことで、当初使用を予定していた方とは違う別の方まで気に入られるという嬉しいハプニングがあり、現在は訓練の時間を心待ちにされています。「家に帰って帰りたい」と言われるほどの惚れ込みようで、その光景に職員の笑顔の輪も広がりました！！

また、もともとトイレの洗面台に取り付けてあったステンレス製の手すりを活用し、木材とドッキングさせることにより、世界に一つだけのオリジナルの起立訓練用具を作成するなど、知恵を絞って、工夫を重ねながら環境の向上に努めています。

今後も『山科会館生活介護事業の知恵の輪』という名の底力を発揮して、あらゆる角度から魅力的な環境を作り上げていこうと思っています。



福祉用具「ささえ手」を使った機能訓練。  
ご本人・介護者ともに楽な力で車いす  
から立ち上がれます！



トイレの手洗いに自動アルコール器と設置台を置いています。



活動スペースには車いすの方でも使いやすい高さの設置台  
を用意しています。キャスター付きで移動も楽々♪



トイレの手すりと不要  
木材で作成した起立  
訓練用具



既存のテーブル足に  
スペーサーを取り付  
け、車椅子でも快適



クッションチェアの下にキャスター付き台座をセット。  
座ったままの移動もスイスイです！

(京都市山科身体障害者福祉会館 生活介護：藤田 直裕)

## 非常時に備える part2 ～事例から考える～

やってきました6月号。part1の事例から皆さんどのような支援を思い浮かべたでしょうか。

今回 part2は、『一人暮らしで、通所施設を利用している方』の生活を、週間スケジュールを見ていただきながら考えていただけたらと思います。

このスケジュールの生活を送っている利用者さんが、感染症の影響で通所施設（A 生活介護）が休みになった場合（陽性者が出た場合でなく、予防として休所とした場合）を想定して、支援者としてどう対応したらいいのか考えていきます。

【一人暮らしで、平日は通所施設（生活介護）に通われている方】

※障害状況としては、身体障害者手帳所持、コミュニケーションは言語で可能。

↓ 通常時の週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日・祝
6:00							
8:00							
10:00	居宅(身体)送り出し	居宅(身体)送り出し	居宅(身体)送り出し	居宅(身体)送り出し	居宅(身体)送り出し		
12:00	A 生活介護	A 生活介護	B 生活介護	B 生活介護	A 生活介護	移動支援で外出(不定期)	
14:00							
16:00	居宅(身体)迎え入れ	居宅(身体)迎え入れ	居宅(身体)迎え入れ	居宅(身体)迎え入れ	居宅(身体)迎え入れ		
18:00	家事(調理、洗濯)	家事(調理、洗濯)	家事(調理、洗濯)	家事(調理、洗濯)	家事(調理、洗濯)	家事(調理、洗濯)	家事(調理、洗濯)
20:00							
22:00							

### ◆ 大事な視点として ◆

- ・ A 生活介護が休みになった場合のご本人の困りは何かを聞き取る。
- ・ 一人暮らしであることの視点。フォーマルな資源だけでなく、家族や友人といったインフォーマルな資源はないか（＝アセスメントの確認）。
- ・ 困り（＝ニーズ）を読み取る。日中の通所がなくなると、その間の身体介護が必要なのではないか。昼食の準備は必要でないか。
- ・ 生活介護の存在意義。ご利用者にとって、生活介護という居場所がどのような存在なのか。

以上のところで、どのような視点・気づきがあったでしょうか。また、part1の家族と同居している事例と比べて、どのような困りが生じると感じられたでしょうか。

同居であっても、一人暮らしであっても、非常時に備え、日頃からのアセスメントと、関係機関一覧など書類の整理が必要だと、この1年の動きから痛く感じました。

現状は非常時ですので、『非常時に備える』というタイトルに矛盾を感じますが、昨年からの経験があるからこそ、今回のニュースを通して皆さんと考える機会になればうれしいです。

（京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」：山下 笑子）